

| | | | |
|-----------|--|-------|-------|
| 講義名 | 朝鮮文化研究 | | |
| 科目区分 | 教養科目 | | |
| 担当教員 | 金 恩貞 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 木曜日 1時限 | | |
| | 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 | | |
| 履修開始年次 | 1年生 | 単位数 | 2 |
| | | 講義コード | 41005 |

主題と概要

日本と韓国は、2002年韓日ワールドカップの共同開催や「韓流」ブームなどを契機にすっかり身近な存在となった。だが、依然として日本と韓国両国の間では過去問題をめぐる軋轢が続いており、北朝鮮によるミサイル挑発は朝鮮半島問題に対する日本人の認識に否定的な影響を与えている。それにもかかわらず、日本と韓国は歴史的に地理的にもっとも近く、戦後国際政治において多くの利益を共有している運命共同体である。さらに、近年激変する東北アジアの国際情勢において、両国はパートナーシップを深めていく必要がある。一方、韓国や朝鮮半島に対する理解は、日本人のみならず諸外国の人や在日コリアンにおいても必要である。そのため、本講義は日本人学生に限らず留学生や在日コリアンにも有意義な講義になると考えられる。本講義を通じて、受講生が現代韓国の大衆文化のみならず朝鮮半島全体に対する理解を深め、近年迫ってくる朝鮮半島の平和体制構築や国際情勢の変化に対しどうするべきかを考える上で、有意義な手掛かりを提供したい。

到達目標

本講義では、主として今日の韓国文化や韓国人の意識を中心に紹介するが、現代韓国に対する理解を深めるため、朝鮮半島の歴史、伝統文化、在日コリアン、南北関係など多角的に学ぶこととする。そのために、到達目標を次の3つにしたい。

韓国と北朝鮮が共有している朝鮮半島の歴史、伝統文化と芸について理解する。
現代韓国の政治、食文化、若者の意識、大衆文化などを紹介しつつ、日本（もしくは、受講生の本国）のそれと比較して考察することとする。
韓国・朝鮮に対して理解し、韓国と日本がお互いに心強い隣人として協調する可能性を探る。
日本籍ではない留学生や在日コリアンなどの受講生においても、本国と韓国・朝鮮を比較・考察できる有意義な講義とする。

提出課題

毎回講義の内容をまとめて提出する

評価の基準

小レポート&授業中のコメント： 20%
出席点： 30%
(大学のOMRカードを利用し出席をチェックする。授業開始から30分が過ぎたら(9:30以降)OMRカードを配布しないので欠席となる)
期末レポート： 50%

履修にあたっての注意・助言他

授業中飲食物、私語は厳禁
代理出席は厳しく禁ずる
授業中作成したコメントから授業に対する理解度を判断1することがある。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

曹美庚『韓国文化を読む』朝日出版社、2010年
曹美庚『韓国社会を読む』朝日出版社、2010年
木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年
朴一『越境する在日コリアン 日韓の狭間で生きる人々』明石書店、2014年

授業計画

履修者の理解度や関心度に合わせて授業を進めるので、多少変更することがある

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション(受講上の注意事項など)、文化とは? |
| 第 2 回 | 現代韓国人の日常生活 |
| 第 3 回 | 朝鮮半島の歴史:古代-現代 |
| 第 4 - 5 回 | 国際情勢と分断国家の運命 |
| 第 6 回 | 根強い儒教的伝統 |
| 第 7 回 | 韓国人の食卓 |
| 第 8 - 9 回 | 韓国の現代政治史 |
| 第10-12回 | 在日コリアンは誰か |
| 第 1 3 回 | K-POPのDNA:朝鮮半島の伝統音楽と現代韓国の大衆音楽 |
| 第14-15回 | 韓国若者の諸相 |

予習・復習

予習・復習は必要ない。

備考

授業に必要な資料を配るが再配布はしないので大事に保管すること。